


チェルノブイリと福島原発事故被災者

母親たちの心をつなぐ手紙集

～チェルノブイリの33年、福島8年～

特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部



チェルノブイリと福島原発事故被災者

母親たちの心をつなぐ手紙集

～チェルノブイリの33年、福島の8年～

この手紙集は東海地域 NGO 活動助成金を受けて発行しました

特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

letter2.jpg
(1275 X 897)

はじめに

この手紙集は、「チェルノブイリ救援・中部」とウクライナのカウンターパート「チェルノブイリの人質基金」が、2015年夏、新たにチェルノブイリ原子力発電所と福島第一原子力発電所の原発事故被災者の母たちに呼びかけて、寄せられた手紙・手記をまとめたものです。

チェルノブイリ救援・中部では、チェルノブイリ原発事故の30年目、福島原発事故の5年目を前にした2015年の秋から、連続講座「チェルノブイリ／フクシマ講座～原発事故被災者と心をつなぐ交流会」を開催し、ウクライナの母たちからの手紙集『たった一回の原発事故で』（1993 地湧社発行）と『チェルノブイリからの手紙 - 10年目のチェルノブイリ』（チェルノブイリ救援・中部刊）を、被災者・避難者・支援者と共に読み続けてきました。事故から10年目当時のウクライナの母たちが綴っている手紙は、福島原発事故の5年～8年目の母たちの置かれている状況、被災者の心情が重なっています。私たちは一遍一遍の手紙を読みながら、双方の母親たちの故郷を喪失した悲しみ、避難先での差別や辛い思いに胸がふさがれ、あるいは放射能被曝から子ども・家族を守りたいという変わらぬ想いに共感し、心打たれてきました。

被災現地で暮らす被災住民、福島県内・県外広域避難者、広く東北・関東一円の福島原発事故の被災者はいろいろな面で「分断」され、その心情や生活を吐露することはつらく重いことです。お一人おひとりの人生が不本意に変えられてしまい、現在も福島原発事故は進行中であり、将来が見えない状況下におかれています。日本はチェルノブイリ・福島事故の教訓を学ばずに、停止中の原発の再稼働を推し進めようとする政策の中で、さらなる原発事故が起これば誰もが被災者となりうること、多発する災害国の狭い日本で安全を求めて避難するところはない、ということをお肝に銘じておかなければなりません。

この手紙集に心の中の封印を解き、絞り出すように書き綴られたやり場のない福島原発事故で被災した母たちの思いを、私たちは我が事として受け止め、彼女たちに寄り添いたいと思います。そして28年間の支援を通して知り合ったチェルノブイリと福島原発事故で被災した母たち・市民が心を通わせ、長く続く原発事故の影響の中で暮らすため

の生きる力の一助になれば、と願います。またチェルノブイリと福島原発事故被害を風化させないため、人々の記録・証言として、次代への教訓にしたいと考えます。

2019年3月

チェルノブイリ救援・中部



ウクライナの母たちからの手紙『たった一回の原発事故で』（1993年地湧社発行）

『チェルノブイリからの手紙 - 10年目のチェルノブイリ』（チェルノブイリ救援・中部刊）